社会福祉法人駒形会　幼保連携型認定こども園　駒形こどもの杜

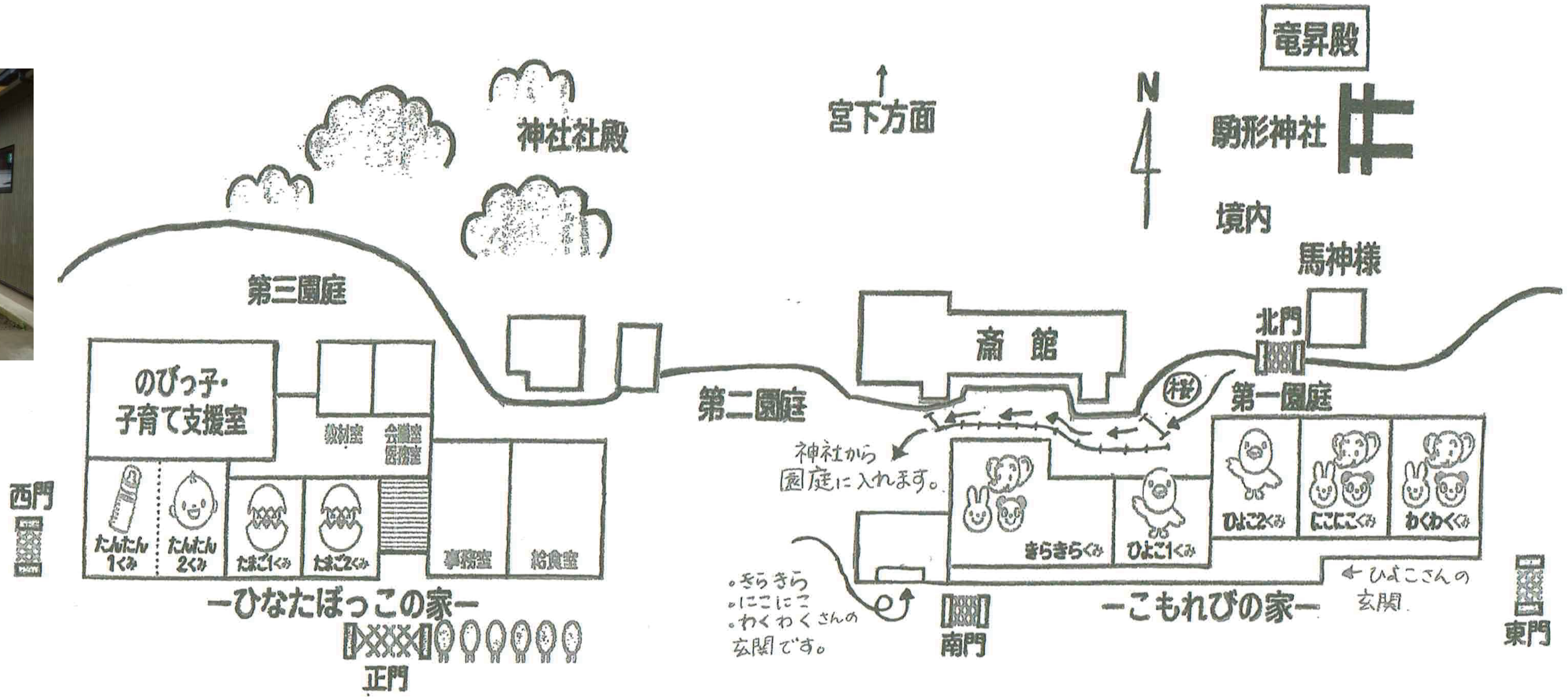
お世話になった方：山下量子先生
見学参加者：山田あすか，古賀誉章，土田寛，高瀬敦，金子亜里砂

所在地：〒023 ー 0857　岩手県奥州市水沢区中上野町 1-83
施設構成：異年齢棟（こもれびの家），管理乳児棟（ひなたぼっこの家）

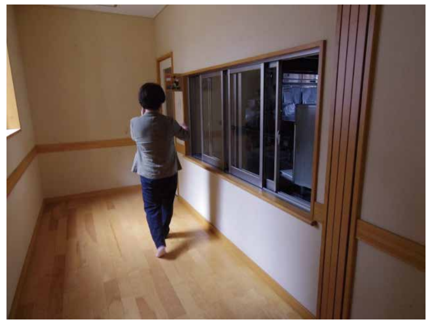
概要：駒形こどもの杜では，こどもたちの活動の中心となる「遊ぶ」「食べる」「眠る」の３つをそれぞれ独立して空間を設け，こどもたちが自主的な行動の中で活動がさえぎられることのないような配慮が行われている。保育者が主導になってこどもの活動を促すのではなく，自らの気持ちに寄り添って生活できるような保育支援を行っている。また，園が運営され始めてから数年が経つ現在も，保育環境や取り組みにおいて試行錯誤が続けられており考え込まれている。

駒形こどもの杜には園庭が３か所あり，各保育室から直接アプローチできる園庭も設けられている。植えられている樹木は卒園生から贈られたものもあり，こどもたちが神社と緑と風景の中で生き生きとできるような空間づくりが積極的に行われていた。
これらの自然を保育室内にも取り入れることでより自然に近く触れあえるような距離感で生活できるよう整えられており，多様な体験ができるような環境づくりが行われており興味深かった。

保育園と神社が隣接しており，自然に囲まれているため水や土と触れ合いや四季を通して多様な感性を育むことができる。さらに，周辺の自然だけでなく公園や神社の斎館でイベントや運動会を行うなど，周辺施設との連携，積極的な利用も行っており，園内にとどまらない保育が行われている。
また，園内にはこどもたちが建築士会と連携して作った木の家があり，場所による連携だけでなく，人との連携も行われていることが伺えた。この他にも，保護者の方が庭の清掃に参加するなど保育に様々な要素が絡み合っていることが見え，とても勉強になった。



低年齢の保育室では天井から複数のオブジェや布がつるされており，こどもの目線からも天井が高すぎないような工夫がされている。右の写真に写っているキッチンは設計の際，こどもたちの目線にあわせて低めに作ろうという意見が出ている場所でもある。この他にも窓の高さや棚の高さなど，こどもの年齢と慎重に合わせて設計しようと努力した場所が数多くみられる。また，どの保育室にもキッチンと玄関が付いており，照明も黄色系のものを使うなど，家庭的な雰囲気も残しつつ環境づくりを行うという積極的な姿勢が感じられた。



給食は保育園内で作られており，給食室が大きな窓をとって併設されている。園の保育の方針として，調理の匂いでこどもたちに食の興味を持ってもらい，同時に調理している姿を見せることで調理する側とのつながりを感じ取ってもらう。また，できるだけ地元産の食べ物を使い，温かいものは温かいうちに，冷たいものは冷たいうちに食べてもらうことで，こどもの個性や成長を促すという考え方で食に対する保育が行われている。見学の際も子供たちが食事を取っており，こどもが育つ環境を多様な方向から考えている様子がうかがえた。

各保育室内でそれぞれの活動が独立して行えるように空間が設えてある。そのため，理念にもあるように，食べたいときに食べる，寝たいときに寝るといったように，それぞれの気持ちに合わせて活動が行いやすくなっている。保育者による保育だけでなく，空間からこのように設えることでより自由な活動が促せるのではないかと考えられる。